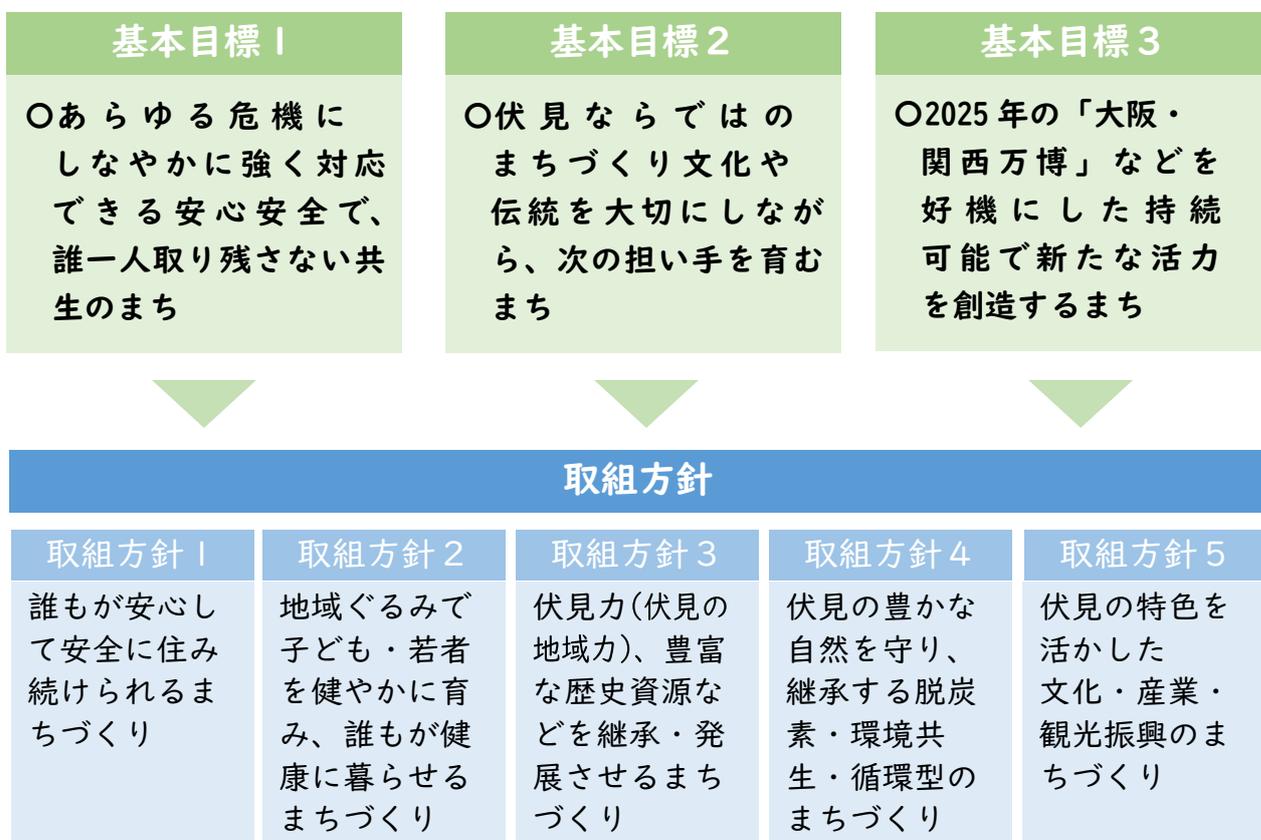


伏見区基本計画2025総括

1 経過

伏見区基本計画2025は、令和3年度から令和7年までの概ね5年間の伏見区のまちづくりの指針として策定した。

本基本計画では、めざすまちづくりの将来像に、『水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」』を掲げ、子どもからお年寄りまで「住みたい」「住み続けたい」「子育てしたい」「働きたい」「訪れたい」と実感でき、地域力・福祉力に満ちた伏見のまちを目指して、区民、各種団体、地域企業、高校、大学などの教育機関、NPOなどと、行政が綿密に連携して、取り組むため、3つの基本目標と、それに基づく5つの取組方針を掲げた。



2 評価

取組方針 1 / 誰もが安心して安全に住み続けられるまちづくり

伏見区役所・深草支所・醍醐支所それぞれのエリアにおいて、防災活動や安心安全ネットワークの活動支援等により、地域の安心・安全な暮らしを守る取組を進めた。

また、区民・各種団体・大学等と連携した、地域コミュニティの活性化や魅力発信の取組により、伏見に魅力を感じ、安心して住み続けられるまちづくりを進めた。

(主な取組)

- ・「地域防災支援プロジェクト」(三所) [(R3～) 学区総合防災訓練への参加約 110 回]

地域の防災活動支援や円滑な避難所開設・運営への協力、区民の防災意識の向上に向けた講習会等の開催や伏見区総合防災訓練を実施。

- ・「重層的支援体制整備事業に係る地域づくりプラットフォームの構築」(醍醐) [(R7～) 3回のミーティングを実施、延べ参加者 122 名]

地域が抱える社会課題の解決に向け、既存の福祉分野における支援の枠組みを超え、地域の様々な活動主体が出会い、学び合う場を創出。

取組方針 2 / 地域ぐるみで子ども・若者を健やかに育み、誰もが健康に暮らせるまちづくり

子育て世代に向けた情報発信、子育て世代同士の交流・地域との繋がりを支援する取組や地域の子ども達に向けた体験・学習の機会の提供等の取組を通じ、地域の未来を担う子どもや若者たちが希望を持って暮らせるまちづくりを進めた。

(主な取組)

- ・「E-TOKO 深草」子育て応援プロジェクト(深草) [(R5～) 各種イベント・WSの延べ参加者約 800 名]

子育て応援情報の発信や、民生児童委員をはじめ様々な関係団体と連携し、子育て世代と「つながり・支え合う」関係づくりを後押しする取組などを行い、深草地域の活性化と子育て世代の定住・移住促進を目指す。

- ・「未来を担う「ふしみっ子」はぐくみプロジェクト」(本所) [(R3～) 145回の健康教室等を開催、延べ参加者 5,480 名]

父親の産後うつ・孤立防止、パートナーとの協力関係構築等を目的とした講演や交流会により子育てを支援。また、アプリや SNS 等を活用し子育て家庭と支援機関がつながる情報発信を実施。地域ぐるみで子育てできる環境づくりを推進。

- ・「特色ある学習・体験プログラム創出事業」(醍醐) [(R7～) 6回のワークショップを実施、延べ参加者約 230 名]

醍醐地域のすべての子ども達の「生きる力」と「創造的な発想力」を養い、その可能性を最大限に発揮できるよう、地域企業等と連携し、プログラミング教室・野外活動等の特色ある学習・体験機会を提供。

取組方針 3 / 伏見力（伏見の地域力）、豊富な歴史資源などを継承・発展させるまちづくり

地域主導による「区民ふれあい事業」等の取組を通じ、区民の交流・地域コミュニティの活性化を進めてきたほか、伏見の魅力を情報発信、体感できる事業等により定住・移住を促進するとともに、伏見の地域力や歴史資源などを継承・発展させるまちづくりを進めた。

（主な取組）

・「区民ふれあい事業」（三所）〔(R3～) ふれあい事業への延べ来場者約 81,600 名〕

多様な主体の参画、地域主導の企画運営等による区民の交流に加え、文化活動・社会福祉活動等を通じた地域コミュニティ活性化に繋げるため、ふれあいプラザ等の事業を実施。

・「深草いっとこ体感プロジェクト」（深草）〔(R5～) 魅力体感型事業「E-TOKO深草 meetup!セミナー」で延べ137セミナーを開催、参加者約1,800名〕

「デジスタイル京都・E-TOKO深草」において、深草で「見る・買う・食べる・体験する」に関する情報を発信。また、プロジェクトに参画する地域の事業者等との連携を強化し、魅力体感型事業や地域の一体感を創出する取組を実施。域内経済活性化と来訪増加を通じ、深草への定住・移住を促進。

・「住むまち・醍醐の魅力再発見事業」（醍醐）〔(R6～) 各種取組を実施〕

地域の歴史ある寺社を会場とし、文化芸術の体験イベントの実施やSNSを活用した地域の情報発信など、より多くの人に醍醐の魅力を知ってもらう機会を創出。

取組方針 4 / 伏見の豊かな自然を守り、継承する脱炭素・自然共生・循環型のまちづくり

区民の活動を支援する事業や伏見の魅力を学び、体験する機会を提供することにより、伏見の豊かな自然環境を守り継承していく持続可能なまちづくりを進めた。

（主な取組）

・「伏見区区民活動支援事業」（三所）〔(R3～) 166 事業を採択〕

伏見区内で行う持続可能なまちづくりに資する新たな活動等に対して補助金や相談支援などを実施。

・「伏見連続講座」（三所）〔(R3～) 142 講座を開講〕

地域の大学、まちづくり団体が自ら企画・運営等を行い、伏見の魅力や地域資源を学び、育み、伝える講座等の開催を支援。また、地域企業等と連携した連続講座特別編を開催し、脱炭素等をテーマに、学び・体験の機会を提供。

・「e-coto チャレンジ in 深草」（深草）〔(R5～) WS への延べ参加者約 280 名〕

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会との共催で、地域企業や大学・各種団体等とも連携し、エコや脱炭素を楽しく学び実践につなげるための様々なワークショップを開催。

取組方針 5 / 伏見の特色を活かした文化・産業・観光振興のまちづくり

令和3年4月に、国内唯一の内陸河川港である伏見港「みなとオアシス」に登録されたことを契機に、港や川をテーマにした伏見のブランドイメージの構築と民間主体の賑わいづくりを推進した。

そのほか、大学・地域企業等との連携により、伏見の特色を活かしたまちづくりを推進した。

(主な取組)

・ 伏見地域の経済・観光振興（本所） [(R3～) ふしみなーとフェスタの延べ来場者約 16,600 名]

「みなとオアシス」伏見港において、「ふしみなーとフェスタ」等の開催により民間主体の持続可能な賑わいづくりを推進。また、令和5年度に登録された「かわまちづくり」計画に基づき、沿川自治体と連携しながら舟運における京都の玄関口としての魅力創造や情報発信に繋がる取組を実施。

3 伏見区を取り巻く社会状況

(1) 転入・転出に伴う人口の動き（社会動態）

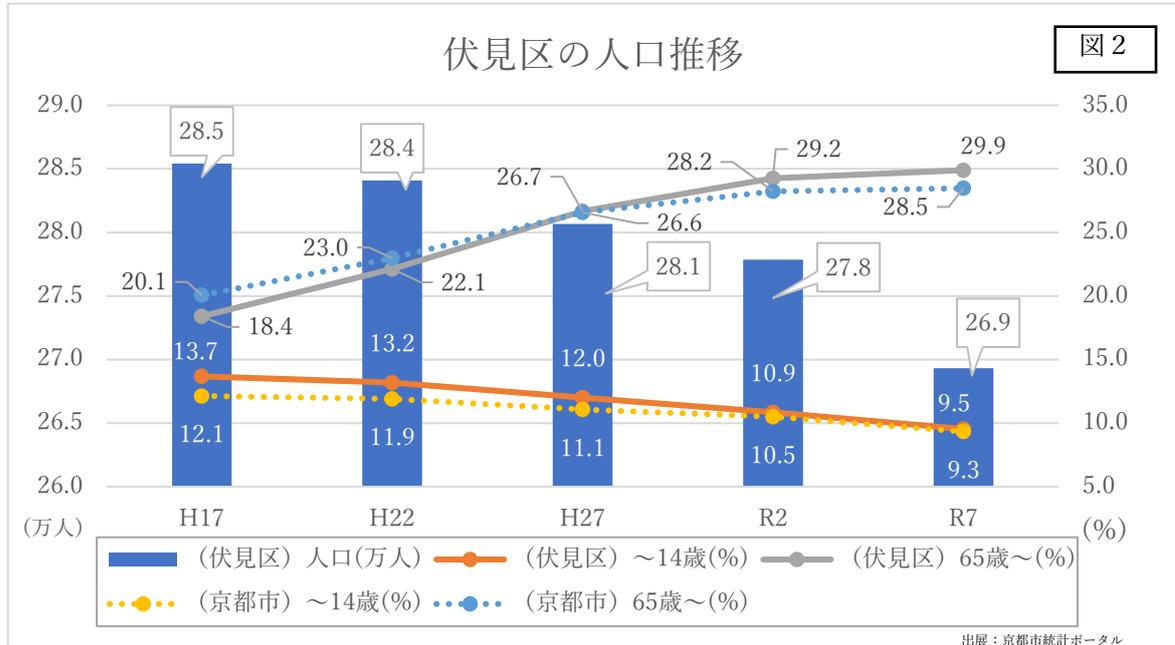
伏見区の近年の特徴として、令和4年以降は京都市で転入超過が続いているなか、ほぼ横ばいであったが、令和7年は転入超過（市内第3位）となっている。



	伏見区 (人)	京都市 (人)
R3	△699	△3,022
R4	36	3,471
R5	26	3,687
R6	65	4,035
R7	860	5,819

(2) 人口の動き

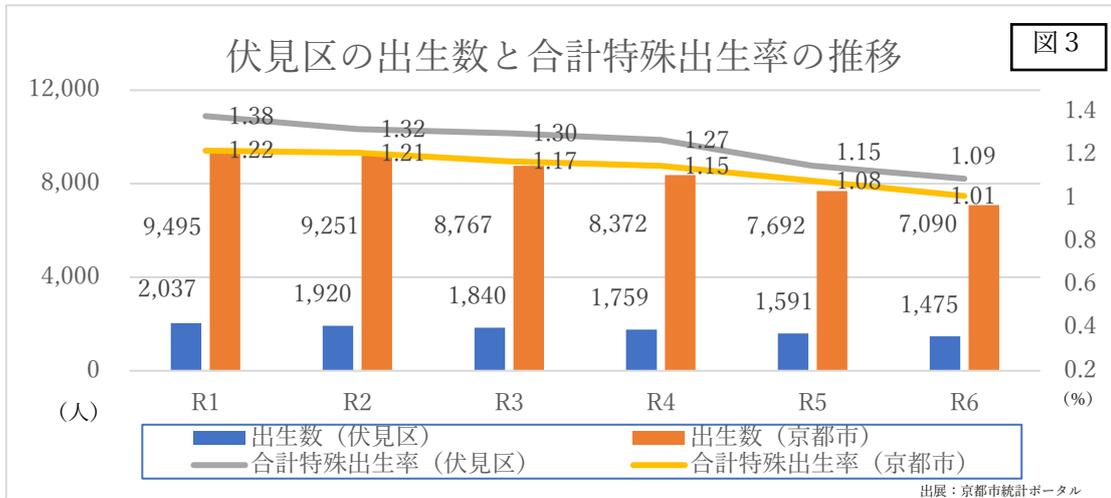
伏見区は、平成27年以降、14歳までの子どもと65歳以上の高齢者の人口割合が京都市と比べて、どちらも高い傾向にある。伏見区の人口は減少傾向であるが、令和7年の人口は26.9万人となっており、市内第1位の人口を維持している（第2位は右京区の19.8万人）。



	伏見区			京都市	
	人口(万人)	~14歳(%)	65歳~(%)	~14歳(%)	65歳~(%)
H17	28.5	13.7	18.4	12.1	20.1
H22	28.4	13.2	22.1	11.9	23.0
H27	28.1	12.0	26.7	11.1	26.6
R2	27.8	10.9	29.2	10.5	28.2
R7	26.9	9.5	29.9	9.3	28.5

(3) 合計特殊出生率

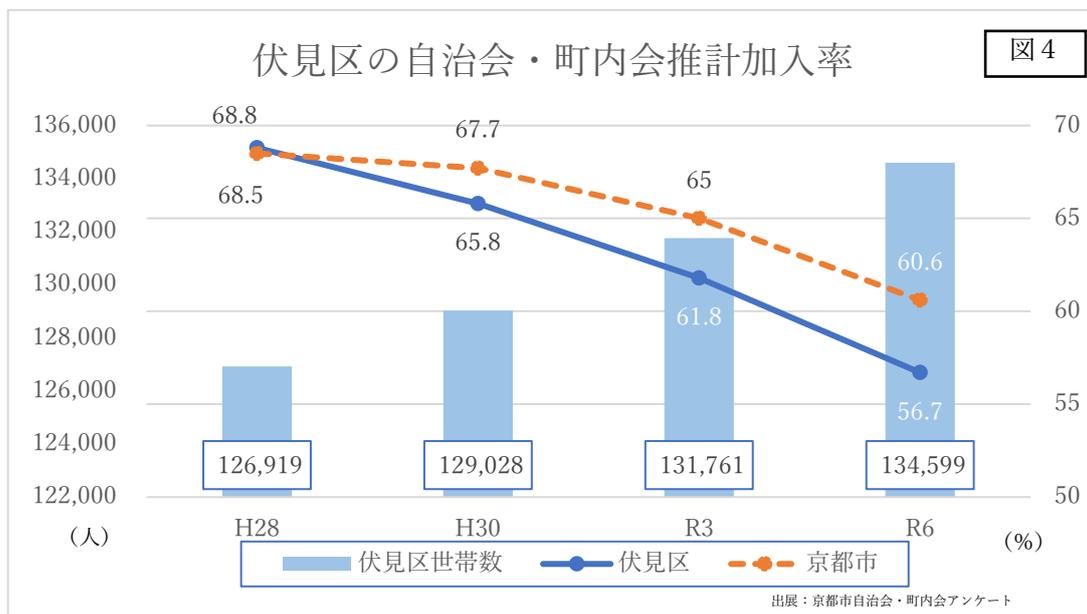
伏見区の合計特殊出生率は、減少傾向であるが京都市の平均を上回って推移している。なお、令和6年では、南区(1.19)、西京区(1.19)、山科区(1.10)、伏見区(1.09)、右京区(1.06)、北区(1.02)の6区が京都市平均を上回っている。



	伏見区		京都市	
	出生数(人)	合計特殊出生率(%)	出生数(人)	合計特殊出生率(%)
R1	2,037	1.38	9,495	1.22
R2	1,920	1.32	9,251	1.21
R3	1,840	1.30	8,767	1.17
R4	1,759	1.27	8,372	1.15
R5	1,591	1.15	7,692	1.08
R6	1,475	1.09	7,090	1.01

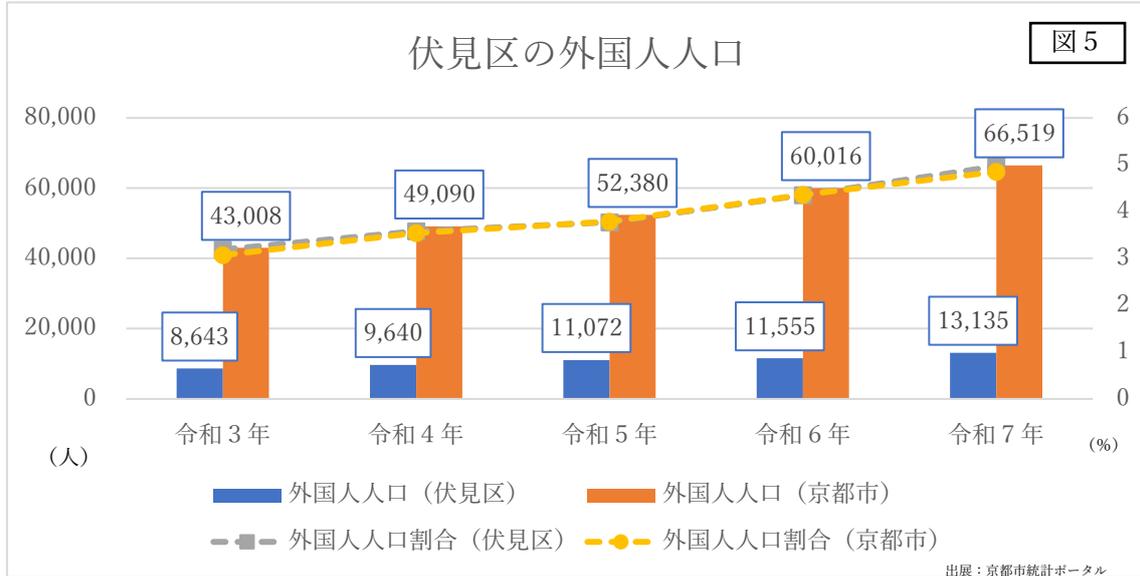
(4) 自治会加入率

伏見区の人口は減少傾向にあるものの、単身世帯の増加に伴い世帯数は増加している。一方で推計加入世帯数は減少しているため、推計加入率も大きく減少している。



(5) 外国人人口及び割合の推移

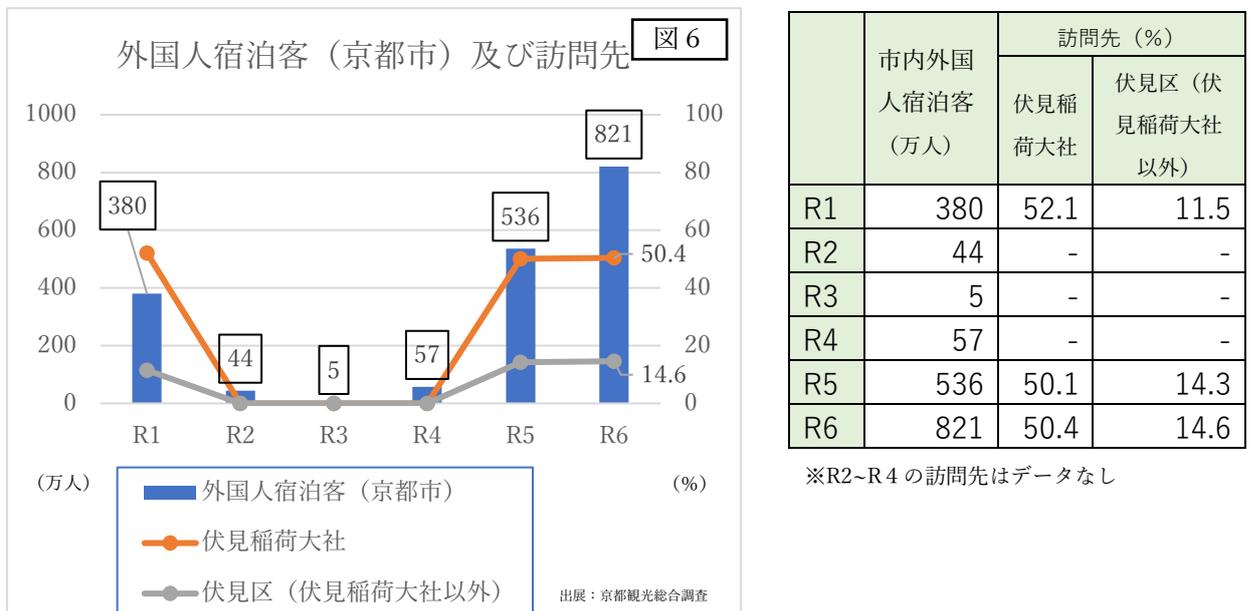
住民基本台帳に基づく外国人人口及び人口に占める割合は、京都市の傾向と同様に、令和3年から令和7年にかけて年々増加している。



	伏見区		京都市	
	外国人人口(人)	外国人割合(%)	外国人人口(人)	外国人割合(%)
R3	8,643	3.19	43,008	3.07
R4	9,640	3.58	49,090	3.54
R5	10,072	3.77	52,380	3.79
R6	11,555	4.35	60,016	4.36
R7	13,135	4.97	66,519	4.85

(6) 訪日外国人数

京都市への訪日外国人数はコロナ禍には大きく減少したものの、近年はコロナ禍以前より増加している。そのうち約半数は伏見稲荷大社へ、約15%が伏見区へ訪問している。



4 総括

(1)成果

「伏見区基本計画 2025」に掲げる取組方針に基づき、地域の安心・安全を守りながら、未来を担う子どもや若者たちが希望を持って暮らせるまちづくりと、「住みたい」「住み続けたい」と感じていただけるまちづくりを進めてきた。具体的数値を見ると、伏見区では、令和7年に転入超過（市内第3位）（p5 図1）となっているほか、特に、合計特殊出生率が高く（p6 図3）、14歳以下の人口割合が多い（p5 図2）という特徴がある。全市的な取組や住宅環境など様々な要因もあるが、これまでの取組が、子育て世代を中心に定住・移住に結びつく成果として表れていると考えられ、これを今後も強化していくことが重要である。

(2)課題

伏見区では、区民の地域活動を支援する取組、伏見の魅力や地域資源を学び体験する機会の創出、さらには区民、各種団体、学生、地域企業等の多様な主体間の交流を促進する取組等により、この間、伏見の特色を活かしたまちづくりを推進してきた。

一方、人口減少や少子化・高齢化（p5 図2）、価値観の多様化などにより、社会構造やまちのあり方が大きく変容する中、自治会加入率の低下（p6 図4）に見られる地縁の希薄化や地域の活動をはじめ様々な文化・産業に関わる担い手が不足し、それにより暮らしや文化・産業を支える機能の低下が予見されている。

また、在留外国人（p7 図5）や訪日外国人等の増加（p7 図6）により、市民生活や地域コミュニティとの調和と誰もが暮らしやすい多文化共生社会の実現を併せて進めていくことも求められている。

伏見区が目指すまちのすがたを実現していくためには、現在伏見に住む方のみならず、働く方、訪れる方など、伏見に関わる全ての方に目を向け、結び合わせながら、未来をもに創り上げていくことが重要である。

(3)まとめ

「伏見区基本計画 2025」による「成果」と「課題」を踏まえ、「京都基本構想」や現在改定作業中の「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン」に掲げる理念のもと、伏見が紡いできた歴史や文化、まちの活力となる産業、自然との共生、さらには、人とのつながりを大切にしながら、誰もが安心安全を実感でき、学び、つながり、支え合うことのできるまちを創り上げていく必要がある。

公・共・私の垣根を低くし、あらゆる主体が連携・協働し、知恵・力・資源を出し合いながら課題の解決や新たな価値の創造につなげるまちづくり、また、喜びや生きがいを感じられるまちづくりをめざすため、今後も取り組みを進めていく。